

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	東京外国語大学				
取 組 名 称	グローバル戦略としての日本語 e ラーニング				
取組学部等	全学				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21018	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	ICT	その他			
キーワード	日本語教育, eラーニング, アカデミック・ジャパニーズ, ICTを利用した国内外の教育機関への日本語教育支援				

### ＜選定理由＞

本取組は、留学生の日本語能力の向上が学生、大学院生の日本留学後の教育効果、研究力向上に重要であるとの視点から、eラーニングを用いて日本語教育を充実しようとしている教育プログラムとして高く評価できる。

東京外語大学では既に現代GP「e-日本語-インターネットで拓げる日本語の世界」で初級、中級レベルの教材を作成しており、これらは既に世界に向けて発信し、利用を呼びかけている。今回の教育プログラムでは、上級教材の作成と日本の大学、大学院において専門教育を受けるに足る日本語能力養成のためにコンテンツを整備すること、日本語教育支援を可能とするe-ラーニングシステムを拡張することに先駆性がある。

また、本学が果たすべき役割を十二分に理解したプログラムであり、日本語教育の難しさを「e-日本語プログラム」という形でインターネットを通じて個人教育の部分にまで落とし込み、個人のスキルアップを見ながら日本語能力を高めようとしている点は極めてユニークであり優れている。

しかしながら、評価体制の面で、大学教育にふさわしい日本語能力がどの程度達成されているのか、その評価の仕組みが具体的に示されていない点は改善すべきである。

今後は、「e-日本語」の世界標準システムとしての役割を担うべく教材、評価システムの充実を図っていただきたい。

**取組の概要【1 ページ以内】**

「留学生 30 万人計画」や外務省の本年度予算では、海外も含めた日本語教育の充実が謳われ、実りある留学にするためには、eラーニングを活用し日本語教育の期間をできるだけ短縮し、1 日でも早く日本語による専門課程の教育が受けられるようにすることもその方策の一つとして考えられる。また、大学院を含め、より高度な日本語での教育への対応が求められている。

本取組では、平成 17～19 年度現代 GP「e-日本語」の成果の上に立ち、海外を含む遠隔地やベテランの日本語教員が不足している機関においても利用可能な eラーニング教材、システム及び指導法を開発し、ICT を利用した国内外への教育機関への日本語教育支援を行い、日本留学希望者の日本語力向上に資することを目的とする。

**日本語eラーニング教材 JPLANG の拡張**

平成 17 年度採択現代 GP「e-日本語—インターネットで広げる日本語の世界」において、教室授業との併用 (blended learning) を前提とした初級・中級レベルの 900 時間、2,112 Web ページ、24,352 音声ファイル、2,596 画像ファイル及び 17 ビデオファイルを含む日本語教育コンテンツの開発、AJAX, Ruby on Rails, Flash を用いパソコン 1 台で LL 機能が実現できる eラーニングシステムの開発、及び eラーニングをとりいれた統合型学習モデル構築のための初級段階の指導書の作成を行った。3 年間の結果として、ユーザー登録は、45 か国、4,000 名を超え、海外における日本語教育に貢献していると言えよう。

本取組では、その実績を踏まえ、日本の大学及び大学院において専門教育を受けるに足る日本語力養成のために、大学院入学用コンテンツの開発及び改良を以下のとおり行う。

**1. 上級コンテンツの開発**

外国人留学生が、日本の大学で日本語による講義を理解し、専門書を読み、レポートを作成し、演習で発表・ディスカッションする日本語力を身につけられるよう、アカデミック・ジャパニーズに特化した教材が必要である。本学では、中級終了程度の日本語教育から人文系・社会科学系等の専門教育への橋渡し教材として『日本事情テキストバンク』を開発した。この教材の eラーニング化を進め、日本留学前あるいは大学及び大学院入学前から、アカデミック・ジャパニーズに必要なスキルを身につけられるようにする。

**2. 上級レベルの日本語教育支援を可能にするeラーニングシステムの拡張**

発表やディスカッションなど、日本語母語話者を交えた活動を可能にするため、日本語教員単独での運用は難しいテレビ会議システムと同等の機能がパソコンレベルで実現できるインターネット (Web) 会議システムを JPLANG に組み込む。

**eラーニングをとりいれた日本語指導の研究**

上級コンテンツやインターネット (Web) 会議システムの追加に伴い、初級から上級まで一貫した eラーニング教材が揃った段階で、アカデミック・ジャパニーズという観点からコンテンツを見直し、初級・中級のコンテンツの改良を行う。また、日本語 eラーニング教材 JPLANG は、blended learning を前提としているため、教材の提供だけではなく、指導法の開発を伴う。語学教育における eラーニングの効果的な使用方法について調査、研究を行い、eラーニングをとりいれた日本語指導のモデルを提案する。

**ファカルティ・ディベロップメント(FD)**

日本語教育における eラーニング推進のため、研修会等を通じて、日本語教員のコンピュータ利用のスキルアップを図る。また、語学教育に特化した eラーニングの開発にあたっては、日本語教員と情報工学系教員双方の意思疎通を図る、橋渡し役が必要である。本取組を通じて OJT (On the Job Training) を実施し、次世代の eラーニング開発を担う人材を養成する。